



青葉の森公園芸術文化ホール イベントレポート

当ホール主催の公演・講座の雰囲気みなさまに発信する「サポーターライターズ」の方によるレポートをお届けします。

EVENT REPORT

平成30年

1月8日[月・祝]

千葉のむかし話 こども語りべ

出演
講座受講生、ひがき順子(講師)



舞 舞台上で語りをするパフォーマンスって、落語的な要素も含まれ、演劇の要素も感じ、なんだか声優さんのアフレコシーンをみている錯覚にもおちいるという、一つで二つ三つ美味しく感じる公演でした。

こんなに沢山の千葉にまつわる神話のような、昔話やおとぎ話のような話があるのか：と改めて気づかされました。

もちろん、話の中には、現在の千葉ができた歴史的由来の話もあり、鎌倉幕府や源頼



朝などと千葉がこんなに深い関係にあったなんて、この公演を観なかつたら、きつと死ぬまで知らずに一生を終えていたと思います。

私たちは、時折とても素晴らしいものを既に手にしているのに、あまりにもそれが当たり前すぎて、その素晴らしさに気がつかないことがあります。ですが、こういう公演を通して、その良さに気づける。それはまるで逆輸入で再発見させられる日本の良さみたいな衝撃でした。

まず、語る人数が凄かった。大人二十一名、こども九名で、午前と午後の部に別れていた程。そして、『え！プロの方ですか?』と思ってしまう程、み



なさん表現豊かで、個性的で、一話始まる度に引き込まれては、「終わりです」という声やお辞儀されると、我に返るの繰り返しでした。

また、今回こどもたちのパフォーマンスも素晴らしくて、想像以上期待以上。

『この子は、声優さんをめざしているんじゃないのかな?いや、絶対向いてると思う。』

『この子は、活舌が凄くいいけど、アナウンサーを目指しているの?』

『この子は、全て暗記して舞台上に立ってるなんて、役者さんを目指しているのかな?』

などと、別の想像が膨らんで、日本の将来も楽しみになっ

てしまいました。

縁あって千葉に住んでいる方、または、県外の方でも千葉の魅力や歴史がわかるこの公演を是非、ご鑑賞いただきたい。

もしくは：踊る阿呆に見る阿呆同じ阿呆なら踊らにや損損ということ、今度は客席ではなく舞台に立つてみるのも面白いかもしれませんね。

サポーター(ライターズ)辻康子



ひがき順子